

1階 寄贈品コーナー

# ハレの日の装い

2022年 2月26日(土) ~ 4月3日(日)

お祭りや結婚式などが行われる日を「ハレの日」といいます。  
今回は普段着ていた作業服などではなく、特別な日に着られていた服やその場面の古写真を中心に展示をします。  
昔着られていた服から、現在のハレの日に着られる服までの繋がりを感じていただければと思います。



嫁ぐ日に家族と (昭和 32 年 澤村美代子氏所蔵)

# 「ハレ」ってなに？

ハレとは祭礼や年中行事、冠婚葬祭<sup>かんこんそうさい</sup>などの特別な時間と空間のことをいいます。そのため、葬儀などの不祝儀<sup>ふしゅうぎ</sup>も含まれます。このとき、正月であれば、歳神棚<sup>としがみだな</sup>が設置されたり、普段とは異なる服、食事などによって非日常的な世界が作られます。

今回は、めでたいときに着用された服を展示します。これらの服には、鶴や亀など縁起のいいものがあしらわれています。また、多くが親族からお祝いとして贈られたものでした。柄に注目をしながら、人々の祝う気持ちを感じていただければ幸いです。

ハレの日の装い

2月26日(土)～4月3日(日)



慶徳  
江戸時代中期の慶徳は、麻や絹の生地を縫い合わせたもので、冬に穿たれる。この装束は、慶徳の一種で、江戸時代中期に流行した。現在は、主に祭りの時に穿られる。



「ハレ」ってなに？  
ハレとは昔々や年中行事、結婚披露宴などの特別な時間や空間のことをいいます。そのために、特別な装束も穿れます。このとき、正月であれば、豪華な装束が用意されたが、普段とは異なる。慶徳などによって、特別な装束が穿れます。  
今回は、お正月のときに穿られる装束を紹介します。これらの装束には、華やかで特別な装束のイメージがあります。また、多くが絹織物から成っています。ハレの日の装束は、特別な装束です。



女児の祝い着

江戸時代中期の女児の祝い着は、赤や黄色の生地を縫い合わせたもので、冬に穿たれる。この装束は、女児の祝い着の一種で、江戸時代中期に流行した。現在は、主に祭りの時に穿られる。



女児の祝い着

江戸時代中期の女児の祝い着は、赤や黄色の生地を縫い合わせたもので、冬に穿たれる。この装束は、女児の祝い着の一種で、江戸時代中期に流行した。現在は、主に祭りの時に穿られる。



子どもの祝い着

江戸時代中期の子どもの祝い着は、赤や黄色の生地を縫い合わせたもので、冬に穿たれる。この装束は、子どもの祝い着の一種で、江戸時代中期に流行した。現在は、主に祭りの時に穿られる。





打掛  
明治初期、東京府立女子学校で着用された打掛。花鳥文様は、学校のシンボルである。



芳祝  
明治初期、東京府立女子学校で着用された芳祝。鶴は長寿の象徴であり、祝賀の意を表している。

